

平成 29 年度  
事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

地方独立行政法人府中市病院機構

## 目 次

### 府中市病院機構の概要

#### 1 現況

(1) 法人名	1
(2) 法人の所在地	1
(3) 業務内容	1
(4) 法人役員	1
(5) 資本金	1
(6) 組織図	1
(7) 設置・運営する病院	2
(8) 職員数	3
2 府中市病院機構の基本的な目標	3

### 全体的な状況

1 法人としての総括と課題	3
2 大項目ごとの特記事項	4
(1) 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	4
(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき 措置	4
(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	5
(4) その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	5

### 年度計画の項目別の状況（第1、第8、第10、第11は除く）

#### 第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する

目標を達成するためとるべき措置	5
1 提供する医療の内容	5
(1) 高齢化に対応した医療	5
(2) 予防医療	6
(3) 救急医療への対応	7
(4) へき地医療	8
(5) 災害医療への協力	9
2 病院が担う役割の確立と診療機能の確保	9
(1) 両病院の将来像の確立	9
(2) 必要な診療機能の確保	9

(3)	I C T技術を活用した地域医療連携	10
(4)	広域的連携体制構築が進められている医療への対応	11
3	地域包括ケアシステムの構築	11
(1)	地域包括支援センターとの連携	11
(2)	「在宅支援システム」構想の推進	12
(3)	医療・介護の総合的なサービス提供	13
4	医師及び医療従事者の積極的かつ計画的な確保	14
(1)	医育機関をはじめとした関係機関への協力要請	14
(2)	臨床研修体制の充実	14
(3)	看護師養成機関等との連携	14
(4)	子育て世代等に配慮した職場環境の整備	15
5	地域住民とともに守る病院づくり	16
(1)	患者の利便性と院内環境の快適性の向上	16
(2)	患者情報の保護	16
(3)	職員の接遇向上	17
(4)	医療安全対策の徹底	17
(5)	住民への積極的な情報発信と住民啓発	17
(6)	病院ボランティアの育成・受け入れ	18
第3	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	19
1	運営管理体制の確立	19
2	効率的で弾力的な人員配置	19
3	職員教育体制の充実	20
(1)	医師及び医療従事者の専門性及び医療技術の向上支援	20
(2)	事務職員の確保・育成と専門知識習得支援	20
4	働きやすい職場環境の整備	21
(1)	働き甲斐を感じることができる仕組みづくり	21
(2)	日常的に業務改善に取り組む職場意識の醸成	21
(3)	福利厚生の充実	22
第4	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	22
1	経営基盤の強化による自律した病院運営	22
(1)	予算執行の弾力化	23
(2)	収入の確保と支出削減	23
2	市からの財政支援	24
第5	その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	24
1	市の健康福祉関連施策への積極的協力	24

2	医療機器などの整備	24
第6	予算、収支計画及び資金計画（平成29年度）	25
第7	短期借入金の限度額	27
第9	剰余金の使途	27

## 府中市病院機構の概要

### 1 現況

#### (1) 法人名

地方独立行政法人府中市病院機構

#### (2) 法人の所在地

広島県府中市鶴飼町 555 番地 3

#### (3) 業務内容

- ① 医療を提供すること。
- ② 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ③ 医療に従事する者に対する研修を行うこと。
- ④ 人間ドック、健康診断等の予防医療を提供すること。
- ⑤ 災害時における医療救護を行うこと。
- ⑥ 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

#### (4) 法人役員

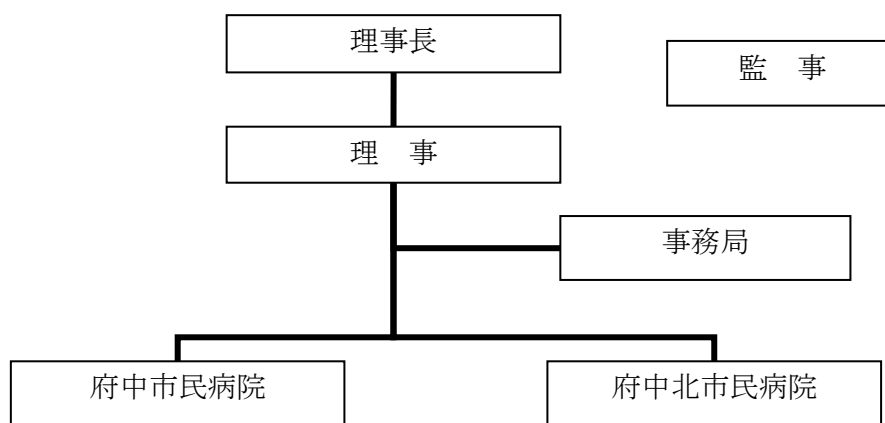
(平成 30 年 3 月 31 日現在)

役職	名 前	備 考
理事長	多田 敦彦	府中市民病院 院長
理事	中井 訓治	府中北市民病院 院長職務代理
理事	北村 智樹	府中市民病院 副院長
理事	長谷川 和子	府中市民病院 総看護師長
理事	寺岡 謙	社会医療法人社団陽正会事業本部長
理事	安原 秀治	両備信用組合 常勤顧問
監事	浅田 勝彦	公認会計士
監事	岸田 光弘	弁護士

#### (5) 資本金

平成 29 年度末	415,879,680 円
平成 28 年度末	415,879,680 円
増減	0 円

#### (6) 組織図



(7) 設置・運営する病院

病院名	府中市民病院	府中北市民病院
主な役割・機能	<u>二次救急輪番制病院</u> <u>へき地医療拠点病院</u> ○ 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設 ○ 日本呼吸器学会関連施設 ○ 日本透析医学会教育関連施設 ○ 日本アレルギー学会準教育施設 ○ 日本大腸肛門病学会認定施設 ○ 日本外科学会外科専門医制度関連施設 <u>訪問看護ステーションあゆみ</u>	<u>救急告示病院</u> ○ 広島大学病院協力型臨床研修病院 ○ 日本消化器病学会関連施設 ○ 日本整形外科学会専門医研修施設 <u>訪問看護ステーション</u> <u>訪問介護看護事業所ささえ</u>
所在地	府中市鶉飼町 555 番地 3	府中市上下町上下 2101 番地
設立	平成 24 年 4 月 1 日	平成 24 年 4 月 1 日
病床数	150 床 (一般 50 床) (地域包括ケア 50 床) (療養 50 床)	60 床 (一般 42 床) (地域包括ケア 18 床)
診療科目	内科・循環器内科・外科・	内科・外科・整形外科・婦人

	整形外科・婦人科・耳鼻咽喉科・小児科・泌尿器科・眼科・精神科・リハビリテーション科	科・小児科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・リハビリテーション科
--	---	---------------------------------

(8) 職員数

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

年度	常勤職員	臨時職員	派遣職員
平成 29 年度末	240 人	89 人	4 人
平成 28 年度末	242 人	79 人	4 人
増減	▲2 人	10 人	0 人

※職員数は非常勤医師数を除く ※派遣職員は市から法人への派遣

2 府中市病院機構の基本的な目標

法人は、府中市の地域医療を守り育てる基本条例の理念である、市民の健康と生命を守るかけがえのない地域医療を、将来にわたって持続的に確保することを基本に置き、府中市地域医療再生計画の具体化に向けて、その推進役を果たします。

法人が目指す医療は、市民が安心して暮らすための健康を維持し、市民の生活の質を高めるための「支える医療」です。そのため、保健・医療・福祉の連携ネットワークづくりや、医療と介護の日常的な連携体制の構築を図ります。

全体的な状況

1 法人としての総括と課題

第 2 期中期計画期間（平成 28 年度～平成 31 年度）の目標は、病院運営を取り巻く情勢を的確に見据えた両病院の将来像を確立し、府中地域全体としての地域包括ケア体制構築に努めること、また、法人の管理運営体制を強化し、経営基盤の強化を図るための組織改革に取り組むことで、地方独立行政法人として自立した経営基盤を確立し、中期計画期間の中間年には経常収支比率 100%以上を達成することです。

平成 29 年度は、収支計画では 3,500 万円の赤字を見込んでいましたが、決算では約 3,000 万円の黒字化を達成しました。経常収支比率は、99.1%の目標に対して実績は 100.8%で、市からの追加繰入を受ける事なく目標を達成できました。この結果を法人としては、第 2 期中期計画の目標達成に向けて、

着実に進んでいると判断しています。

府中市民病院では、前年度比較で医業収益は約 1 億 4,600 万円の増、医業費用も約 5,400 万円の増となりました。医業収益は、入院収益約 1 億 2,000 万円増、外来収益約 1,900 万円増となり、これらは病床機能の変更による効果的、効率的な病床運用によるものです。医業費用の特徴的な増加要因は、新病院へ投資した設備や医療機器の有償保守が始まったことで、約 1,200 万円増となりました。市からの繰入金を除く赤字額は、前年度比較で約 9,200 万円の減となりました。

府中北市民病院では、前年度比較で医業収益は約 2,700 万円の増、医業費用は微増となりました。医業収益では、入院収益約 1,300 万円増、外来収益約 300 万円増でした。外来収益は横ばいですが、新規事業の通所リハビリテーションを開始するなど、市からの繰入金を除く赤字額は、前年度比較で約 2,900 万円の減となりました。

## 2 大項目ごとの特記事項

### (1) 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

診療機能については、府中市民病院と府中北市民病院の両病院において、内科や外科の常勤医師がお互いに診療支援を行うなど、医師の連携を継続しました。

救急医療については、府中市民病院は二次救急輪番制病院として、府中北市民病院は救急告示病院として、公立病院としての役割を果たすため、医師や医療従事者による救急体制を維持しました。

府中市民病院は、へき地医療拠点病院として、協和・久佐両地区での巡回診療を継続し、過疎化・高齢化が進む地域に暮らす住民の受療機会の確保に努めました。

両病院が有する病床の効果的な活用を図り、高齢者の在宅生活の支援及び在宅生活への復帰に必要な医療を提供するため、平成 28 年度に府中市民病院は 1 病棟 50 床、府中北市民病院は 18 床の地域包括ケア病床を導入し、効果的、効率的な病床運用を継続しました。

府中北市民病院では、在宅における医療と介護の総合的サービス事業として、24 時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業を行う府中北市民病院訪問介護看護事業所「ささえ」を継続し、また、在宅生活を支援するため通所リハビリテーションを新規開始しました。

### (2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置



病院外部からの意見等を積極的に業務運営に生かすため、昨年度、法人理事に病院事業以外の民間事業経営者を招聘しました。さらに、欠員となっていた府中北市民病院からの内部理事に、副院長（院長職務代理）が就任し、理事会の機能強化を図りました。

府中市民病院では、病院長をトップに経営戦略会議を月 2 回、定例で開催し、組織的な経営戦略機能を強化しました。

第 1 期中期計画期間に達成できなかった、法人事務局職員の市派遣職員から法人採用職員への移行はありませんでした。しかし、法人事務局での市派遣職員は、課長や係長の役職に就いており、適任者の採用は容易ではないため、次年度の移行に向けて計画的な準備を行いました。

### (3) 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

今年度は、法人設立初年度以来の黒字決算となりましたが、第 2 期中期計画では、来年度以降も黒字決算を継続する必要があり、目標達成に向けて引き続き経営改善に取り組みます。

また、将来にわたって公的な病院としての使命を果たしていくための経営基盤を確保するためには、両病院の診療圏域における役割を明確にし、両病院の将来像を確立する必要があります。また、業務運営や財務管理の見直しと効率化を図るため、事務局体制と事務部門の業務改革に取り組みます。

### (4) その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

平成 27 年 12 月、府中市民病院の新病院建築工事が完了し、平成 28 年 1 月末に移転、2 月 1 日から新病院での業務を開始しました。平成 28 年 10 月末には旧病棟の解体、外構・駐車場整備工事も全て完了し、地域医療を守るための施設設備は整っています。

## 年度計画の項目別の状況

### 第 2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 提供する医療の内容

##### (1) 高齢化に対応した医療

高齢者の在宅生活の支援及び在宅生活への復帰に必要な医療を提供するため、一般病床に地域包括ケア病床を導入しました。地域包括ケア病床については、両病院の医療機能や病床利用状況から最適な病床数としました。

府中市民病院は、1 病棟 50 床、府中北市民病院は 18 床を地域包括ケア病床とし、効果的、効率的な病床運用を行いました。

また、府中市民病院は心臓リハビリテーションを、府中北市民病院は通所リハビリテーションを開始しました。在宅生活を支援するため、両病院とも訪問診療、訪問看護を行いました。訪問看護、訪問介護事業については、将来的な人材確保のために、他の事業所との連携による事業継続を検討する必要があります。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
地域包括ケア病棟			
病床利用率 (%)	86.9	90.2	3.3
在宅復帰率 (%)	91.6	88.0	▲ 3.6
総単位数	6,191	14,783	8,592
心臓リハビリテーション			
延患者 (人)	—	1,726	1,726
総単位数	—	4,535	4,535
訪問診療延患者(人)	37	35	▲ 2
訪問看護延患者(人)	854	1,017	163

府中北市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
地域包括ケア病棟			
病床利用率 (%)	95.7	88.0	▲ 7.7
在宅復帰率 (%)	82.3	91.8	9.5
総単位数	3,805	5,930	2,125
通所リハビリテーション			
延患者 (人)	—	766	766
訪問診療延患者(人)	206	159	▲ 47
訪問看護延患者(人)	331	325	▲ 6

## (2) 予防医療

両病院は、市民病院として人間ドック・特定健診・がん検診を積極的に実施しましたが、健診に関わる医師の業務分担は限られており、健診の受入者数の拡大は困難な状況になっています。なお、府中市内で婦人科検診が実施できる医療機関は両病院だけであり、今後も健診体制が維持できるよう取り組みます。

また、リハビリテーションの業務量が増加しているため、職員の増員を図る必要があります。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
健診受診者			
人間ドック（人）	349	361	12
協会けんぽ等（人）	1,839	1,890	51
府中市健診（人）	575	546	▲ 29
合 計	2,763	2,797	34
リハビリテーション延患者			
入院・外来（人）	10,321	7,349	▲ 2,972
訪問（人）	1,794	1,982	188

※延患者数の減少は、地域包括ケア病床の患者を除いているため。

府中北市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
健診受診者			
人間ドック（人）	70	82	12
協会けんぽ等（人）	293	295	2
府中市健診（人）	218	213	▲ 5
合 計	581	590	9
リハビリテーション延患者			
入院・外来（人）	7,667	5,160	▲ 2,507
訪問（人）	615	754	139

※延患者数の減少は、地域包括ケア病床の患者を除いているため。

### (3) 救急医療への対応

府中市民病院は二次救急輪番制病院として、府中北市民病院は救急告示病院として、府中地域の急性期患者の受け入れを行いました。

府中地区医師会の休日当番医制では、府中市民病院は診療所と協力し府中地域の当番医減少を補完、府中北市民病院は年間を通じて上下地域の当番医を担当しました。

また、府中市民病院では 24 時間 365 日、外科の緊急手術に対応する体制を継続しました。しかし、平成 30 年度は外科常勤医師の退職により外科手術ができなくなるため、外科の救急対応が大きく変わります。当面、府中地区医師会が実施する休日当番医制の維持に努めます。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
救急対応実績			
救急搬送患者（人）	340	298	▲ 42
時間外患者（人）	2,758	2,629	▲ 129
合 計	3,098	2,927	▲ 171
うち入院患者（人）	426	462	36

府中北市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
救急対応実績			
救急搬送患者（人）	165	173	8
時間外患者（人）	780	1,022	242
合 計	945	1,195	250
うち入院患者（人）	164	184	20

#### (4) へき地医療

府中市民病院は、へき地医療拠点病院として、過疎化・高齢化が進む地域に暮らす住民の受療機会の確保のため、協和・久佐両地区での巡回診療を継続しました。

へき地医療を担う医師や医療従事者の研修及び研究施設を目指すために、医師の招聘に取り組みます。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
巡回診療実績（協和地区）			
実施回数（回）	12	11	▲ 1
受診者（人）	78	91	13
巡回診療実績（久佐地区）			
実施回数（回）	11	12	1
受診者（人）	100	132	32

府中北市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
研修受入実績			
研修医（回）	1	0	▲ 1
医学生（人）	1	0	▲ 1
計	2	0	▲ 2

(5) 災害医療への協力

災害発生時や感染症の流行時には、市からの要請に基づき必要な医療を提供します。今年度は、市からの要請はありませんでした。

両病院とも消防訓練は実施していますが、災害訓練は未実施のため、BCP（事業継続計画）の作成に合わせ、災害等対策訓練が実施できるよう努めます。

府中市総合防災訓練	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
参加者			
医師（人）	1	0	▲ 1
看護師（人）	1	0	▲ 1
計	2	0	▲ 2

災害支援ナース	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
広島県看護協会の災害支援ナースの登録者			
府中市民病院（人）	2	2	0
府中北市民病院（人）	1	1	0
計	3	3	0

2 病院が担う役割の確立と診療機能の確保

(1) 両病院の将来像の確立

市から「法人の経営に関する調査・分析業務最終報告書」の提供がありましたが、法人として両病院の将来像を確立するまでには至っていません。両病院の将来像の確立については、地域包括ケアシステムにおける役割や、市が描くまちの将来像とも関係するため、市と調整を図りつつ、府中地区医師会の医療機関と連携しながら進めます。

(2) 必要な診療機能の確保

府中市民病院の循環器内科については、平成 26 年度から福山市民病院の診療支援により外来診療を継続していましたが、平成 29 年 1 月に岡山大学から循環器専門の常勤医師が 1 人着任しました。地域に必要な診療機能として、地域住民を支えました。しかし、内科常勤医師、特に消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科を専門とする医師が不足しているため、常勤及び非常勤医師の招聘に取り組みます。

法人として、平成 27 年度から府中北市民病院の内科常勤医師 1 人退職に

対応するため、府中市民病院の内科常勤医師を府中北市民病院へ異動し、診療機能を維持・継続しました。また、両病院において、内科や外科の常勤医師がお互いの診療支援を行うなど、医師の連携を継続しました。

地域住民を支えるため、両病院とも、地域医療を担う内科常勤医師の招聘に努めます。

診療科目 ※○は常勤、△は非常勤	府中市民病院			府中北市民病院		
	H28末	H29末	増減	H28末	H29末	増減
内科	○	○	—	○	○	—
循環器内科	○	○	—	—	—	—
外科	○	○	—	△	△	—
整形外科	○	○	—	○	○	—
婦人科	○	○	—	△	△	—
耳鼻咽喉科	○	○	—	△	△	—
小児科	△	△	—	△	△	—
泌尿器科	△	△	—	△	△	—
眼科	△	△	—	—	—	—
皮膚科	—	—	—	△	△	—
精神科	△	△	—	—	—	—
リハビリテーション科	○	○	—	○	○	—

### (3) ICT技術を活用した地域医療連携

府中市民病院は、平成28年6月14日に「ひろしま医療情報ネットワーク（HMネット）」に参加し、情報開示及びHMカード発行病院として、医療連携におけるICTの活用を始めました。今年度は、開示情報を追加するため、県医師会の補助金を活用し、放射線画像の開示システムを構築しました。放射線画像の開示を開始したことの広報活動に合わせて、医療連携を推進しました。

府中地区医師会圏域での参加施設を拡大し、医療連携においてICTの活用を推進します。そのために、患者紹介元の診療所やクリニックが参照しやすい運用にする必要があります。

府中北市民病院は、オーダリングシステムの更新に合わせ電子カルテの導入を検討しており、導入時には、HMネットに参加し、ICTの活用による北部地域での医療連携を図ります。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
ひろしま医療情報ネットワーク（HMネット）			
カード発行（枚）	11	5	▲ 6
参照した件数（件）	3	3	0
参照された件数（件）	6	14	8

※HMネット参加施設数（H30.6.1 現在） 福山・府中医療圏 133 医療機関

#### (4) 広域的連携体制構築が進められている医療への対応

市内に欠けている医療機能の小児救急医療や周産期医療は、病院単独での再開は困難です。法人としては、非常勤医師による小児科外来の継続と、府中市内で唯一、婦人科を標榜する医療機関として、外来診療と婦人科検診の現状維持に努めました。

しかし、両病院ともに婦人科医師 1 人での診療が長く続いており、診療科を維持するために、医師の招聘にも取り組む必要があります。

外来診療日		月	火	水	木	金
府中市民病院	小児科	○	○	○	○	○
	婦人科	○	○	—	○	○
府中北市民病院	小児科	△	○	○	○	—
	婦人科	△	○	○	○	—

※△は午前中 ※—は休診

	府中市民病院			府中北市民病院		
	H28	H29	増減	H28	H29	増減
小児科外来患者(人)	5,721	6,355	634	694	730	36
婦人科外来患者(人)	2,339	2,527	188	503	555	52
子宮がん検診者(人)	866	919	53	93	92	▲1

### 3 地域包括ケアシステムの構築

#### (1) 地域包括支援センターとの連携

市の地域包括支援センター（サブセンター）機能は、南部日常生活圏域には府中市民病院内に、北部日常生活圏域には上下保健センター（府中北市民病院に併設）内に設置されています。

府中市民病院では、地域医療連携室の体制を強化し、前方連携、後方連携、在宅支援の業務担当を明確にすることで、病院内に設置された市の地域包括支援センター（サブセンター）機能との連携を図りました。

府中北市民病院では、地域医療連携室の職員とサブセンターの職員が連携して、他職種研修会の開催、地域への出前講座を行うなど、上下地域での他職種連携による支援体制づくりに取り組みました。引き続き、連携して活動できる職員配置を維持します。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
地域医療連携室の職員体制			
看護師長(人)	1	1	—
看護師(人)	—	1	1
社会福祉士(人)	3	3	—
計	4	5	1
地域包括支援センター（サブセンター）職員体制			
保健師(人) ※市の職員	1	1	—

府中北市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
地域医療連携室の職員体制			
社会福祉士(人)	1	1	—
地域包括支援センター（サブセンター）職員体制			
保健師(人) ※法人派遣職員	1	1	—

## (2) 「在宅支援システム」構想の推進

府中地区医師会の「地域包括ケア事業多職種連携協議会」に、医療介護連携ワーキンググループが設置され、府中市民病院から社会福祉士1人が委員として参加しました。

府中市地域包括支援センターと福山市地域包括支援センター新市の共催事業「府中地区地域包括ケア『まなび塾』」の第6回を担当し、講演会を開催しました。

演題 「地域医療と多職種連携 多職種協働なくして地域医療なし」

日南町国保日南病院名誉院長 高見徹先生

府中北市民病院は、病院まつりと同時開催で、シンポジウムを開催しました。

テーマ「地域で住み続けるために」

発表者 地域包括支援センター（上下サブセンター）・府中地区医師会  
上下支所・府中市社会福祉協議会上下支所・民生委員

両病院は、「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを、人生の最後まで続



けることが出来るよう、住まい・医療・介護・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築」の実現に向けて、病院として出来ることから取り組みます。

(3) 医療・介護の総合的なサービス提供

府中市民病院居宅介護支援事業所は、在宅での生活を支援するケアプランを作成し、利用者とサービス事業者との連絡調整を行っていましたが、平成 29 年 12 月 31 日で事業所を廃止しました。事業所は廃止しましたが、府中市南部の居宅介護支援事業所(17 事業所)との連携を推進することで、在宅生活を支える医療と介護の総合的なサービスの提供に努めます。

府中北市民病院は、府中市北部で唯一の 24 時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを提供できる事業所として、訪問介護看護事業所「ささえ」を継続しました。今年度は、病院 4 階施設の利活用策を検討、サービス付き高齢者向け住宅に改修するための設計を行いました。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
訪問看護ステーションの職員体制			
看護師(人)	5	6	1
理学療法士(人)	2	1	▲ 1
計	7	7	—
訪問看護実績			
年度末登録者(人)	79	86	7
延訪問看護回数(回)	2,731	3,457	726
H29 年度在宅看取り者	7 人(当院医師 3 人、他院医師 4 人)		

府中北市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
訪問看護ステーションの職員体制			
看護師(人)	3.8	3.8	—
訪問看護実績			
年度末登録者(人)	25	26	1
延訪問看護回数(回)	1,637	1,668	31
H29 年度在宅看取り者	9 人(当院医師 9 人)		
訪問介護看護事業所「ささえ」			
介護福祉士(人)	5	5	—
利用契約者数(人)	8	9	1

在宅看取り者(人)	4	6	2
-----------	---	---	---

#### 4 医師及び医療従事者の積極的かつ計画的な確保

##### (1) 医育機関をはじめとした関係機関への協力要請

院長、事務長が大学病院をはじめ、広島県や広島県地域医療支援センター等の関係機関への支援要請を行いました。引き続き、医師の招聘に努めます。

市の医師育成奨学金については、今年度末現在で4人が活用しています。

	府中市民病院			府中北市民病院		
	H28	H29	増減	H28	H29	増減
常勤医師 (人)	11	11	—	3	3	—
非常勤医師 (人)	4.00	4.04	0.04	4.67	4.47	▲ 0.20
計	15.00	15.04	0.04	7.67	7.47	▲ 0.20

※非常勤医師数は常勤換算人数

##### (2) 臨床研修体制の充実

府中市民病院は、岡山大学病院、福山市民病院、中国中央病院の内科専門医研修プログラムに、特別連携施設として登録していましたが、研修受入実績はありませんでした。

府中北市民病院は、広島大学病院の協力型臨床研修病院として、地域医療研修の研修医及び学生の受け入れを行っていますが、今年度は希望者がありませんでした。

	府中市民病院			府中北市民病院		
	H28	H29	増減	H28	H29	増減
研修医 (人)	0	0	—	1	0	▲ 1
学生 (人)	0	0	—	1	0	▲ 1
計	0	0	—	2	0	▲ 2

##### (3) 看護師養成機関等との連携

今年度、奨学金貸与学生が2人入職しました。年度末時点で、1人の看護学生に奨学金を貸与しています。また、近隣の看護学校を訪問し、奨学金制度や両病院の採用情報などを周知しました。

府中北市民病院では、上下高校を訪問し、生徒を対象とした、看護師奨

学金制度などの説明会を開催しました。

府中市病院機構	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
看護師奨学金貸与状況			
貸与学生	3	1	▲ 2
看護師採用情報周知状況			
訪問学校数	6	6	—
郵送学校数	122	122	—

府中市民病院は、府中地区医師会准看護学院の准看護師養成のための実習施設となっており、実習生の受け入れや学院への講師派遣を行いました。また、訪問看護ステーション「あゆみ」では、府中地区医師会准看護学院、福山平成大学、広島県厚生連尾道看護専門学校の実習生を受け入れました。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
府中地区医師会准看護学院講師派遣			
医師	27	27	—
看護師	24	24	—
診療技術部	8	8	—
計	59	59	—
訪問看護ステーション実習生受入			
府中准看護学院(人)	10	10	—
福山平成大学(人)	6	6	—
JA 尾道看護学校(人)	21	27	6
計	37	43	6

#### (4) 子育て世代等に配慮した職場環境の整備

多様な勤務形態に対応する短時間正規雇用制度を導入するなど、魅力ある制度の構築には至っていません。また、労働契約法改正により、平成 30 年 4 月 1 日以降、臨時職員（5 年以上勤務者）の無期契約の義務付けに対応し、職員確保に努めます。

病院事業はマンパワーを特に必要とし、女性や子育て世代の医師や医療従事者だけでなく、経験豊富な人材を確保するためにも、多様な勤務形態に対応する魅力ある制度の構築に取り組みます。

また、院内保育所「おひさま」の運営について、現状の定員では、子育て世代等に配慮した職場環境の整備とはいえず、平成 30 年度から認可保

育所として法人が運営するための準備を行いました。

「おひさま」利用状況	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
定員(人)	8	8	0
月平均利用者(人)	5.7	7.7	2
病時保育登録者(人)	28	39	11
病時保育延利用者(人)	15	21	6

## 5 地域住民とともに守る病院づくり

### (1) 患者の利便性と院内環境の快適性の向上

府中市民病院は、駐車場や外構工事の施設設備が全て完成し、広くゆとりのある駐車場には、屋根付きの思いやり駐車場、四季の花を配置した遊歩道や植栽が施され、新築の病棟と相まって、患者の利便性と快適な環境が整備されました。

HMネットによる地域の病院・診療所との医療連携は、外来に医療情報参照用のパソコンを配置しました。

電子カルテと各部門（検査科、放射線科、内視鏡室、薬剤科、リハビリテーション科、栄養科など）を連携することで、業務の効率化と患者の待ち時間短縮を図りました。

府中北市民病院は、随時、地域住民の作品展示や、地元の音楽活動家やグループによる「ロビーコンサート」を開催し、患者が安らぐ空間を作りました。

引き続き、患者の声だけでなく、職員提案による院内環境の快適性の向上に努めます。

### (2) 患者情報の保護

府中市民病院は、電子カルテの導入により、患者情報が電子化されています。電子カルテには、職種による機能制限もあり、また、閲覧記録も職員と情報が特定できます。今年度は「個人情報保護法の改正」について、総務課職員による職員研修会を開催しました。また、地域医療病院コンソーシアム府中として、社会医療法人社団陽正会と共同で同様の研修会を開催しました。

府中北市民病院は、院外で開催された「セキュリティー対策セミナー」に、事務職員と診療技術部の職員が参加しました。

個人情報保護に関する職員研修会は、毎年度、職員の採用や退職がある

ため、年1回開催します。

	府中市民病院			府中北市民病院		
	H28	H29	増減	H28	H29	増減
研修回数(回)	1	1	—	1	1	—

### (3) 職員の接遇向上

両病院とも、病院の各階に「ご意見箱」を設置してサービス向上委員会で内容を協議し、病院としての回答を1階ロビーに掲示しました。また、院内の接遇委員会を開催し、職員研修や毎月のポスター掲示の内容を協議、また、サービス向上委員会と連携しながら院内ラウンドを行い、施設面での改善に努めました。

今年度も、外部講師による職員研修を開催しました。引き続き、継続して職員の接遇向上を図り、患者満足度の向上に努めます。

	府中市民病院			府中北市民病院		
	H28	H29	増減	H28	H29	増減
研修回数(回)	2	2	—	1	1	—

### (4) 医療安全対策の徹底

毎月、院内感染対策委員会を開催し、感染症情報を共有しました。また、定期的に職員研修会を開催し、院内感染対策の徹底を継続しました。

毎月、医療安全対策委員会を開催し、インシデント・アクシデント報告の内容とその対応策及び再発防止策を確認しました。また、定期及び随時に職員研修会を開催し、医療安全対策の徹底を継続しました。

研修回数(回)	府中市民病院			府中北市民病院		
	H28	H29	増減	H28	H29	増減
院内感染対策委員会	4	4	—	3	3	—
医療安全対策委員会	7	7	—	2	3	1

### (5) 住民への積極的な情報発信と住民啓発

法人の広報紙「ささえ」は、目標の2回に対して未発行となりましたが、病院のホームページのトピックス記事やFacebookにより情報発信を行いました。また、府中北市民病院は、独自の広報紙「かわら版」を発行するなど、積極的な情報発信に努めました。

地域イベントとしては、両病院とも病院まつりや院内コンサートを開催し、また、町内会の夏祭りや上下ひな祭りに出店するなど、地域交流に努めました。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
情報発信			
広報紙「ささえ」	1	0	▲ 1
ホームページトピックス	32	42	10
Facebook	11	36	25
イベント			
病院まつり	1	1	—
院内コンサート	2	2	—
院外イベント参加	1	1	—

府中北市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
情報発信			
広報紙「かわら版」	4	5	1
ホームページトピックス	1	7	6
Facebook	16	41	25
イベント			
病院まつり	—	1	1
院内コンサート	4	4	—
院外イベント参加	1	1	—

#### (6) 病院ボランティアの育成・受け入れ

府中市民病院では、病院ボランティアの方には、外来患者の多い午前中の参加可能時間で、総合受付での受付案内や、外来から検査への誘導など、病院業務への支援をいただきました。

ボランティアの交代はありますが、継続して参加していただき、ボランティアユニフォームも定着し、患者にも認知されています。今後も、病院ボランティアの受け入れに努めます

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
病院ボランティア			
登録者（人）	3	3	—

### 第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 運営管理体制の確立

病院外部からの意見等を積極的に業務運営に生かすため、昨年度、法人理事に病院事業以外の民間事業経営者を招聘しました。さらに、欠員となっていた府中北市民病院からの内部理事に、副院長（院長職務代理）が就任し、理事会の機能強化を図りました。

自律的な業務運営の実現に必要な経営戦略機能の充実と、運営管理体制の確立を実現するため、法人事務局体制をさらに強化する必要があります。

#### 2 効率的で弾力的な人員配置

法人として、両病院の効果的な職員配置を行いました。

- ・両病院間の職員異動
- ・心臓リハビリテーション開始による職員採用
- ・通所リハビリテーション開始による職員配置
- ・透析室の維持のための職員配置
- ・市の派遣から法人採用職員への移行に向けた職員採用

また、第1期中期計画期間に達成できなかった、法人事務局職員の法人採用職員への移行は、次年度の移行に向けて計画的な準備を行いました。

正職員数（人）	府中市民病院			府中北市民病院		
	H28	H29	増減	H28	H29	増減
看護師	109	107	▲ 2	33	34	1
介護福祉士	7	7	0	5	5	0
薬剤師	4	4	0	2	2	0
検査技師	7	7	0	3	3	0
放射線技師	5	5	0	3	3	0
理学療法士	8	9	1	2	3	1
作業療法士	1	1	0	2	2	0
言語聴覚士	1	1	0	0	0	0
臨床工学技士	5	5	0	2	3	1
管理栄養士	3	4	1	1	1	0
社会福祉士	3	4	1	1	1	0
事務職	9	10	1	2	3	1

### 3 職員教育体制の充実

#### (1) 医師及び医療従事者の専門性及び医療技術の向上支援

全職員の学会、研修会、発表会等への参加を支援しました。今後も、人材育成に努めます。

職 種	府中市民病院			府中北市民病院		
	H28	H29	増減	H28	H29	増減
医師 (延人数)	13	19	6	4	4	0
看護師 (延人数)	108	129	21	32	40	8
医療技術員 (延人数)	121	164	43	24	7	▲ 17
事務職員 (延人数)	29	52	23	41	45	4
合計 (延人数)	271	364	93	101	96	▲ 5

#### (2) 事務職員の確保・育成と専門知識習得支援

事務職員のキャリアアップを積極的に支援することで、医療保険制度や診療報酬制度など病院特有の医療事務、経理及び財務などに精通する職員を育成しました。

今年度も、医師の負担軽減を図るため、府中市民病院で医師事務作業補助者を1人育成し、嘱託事務職員として勤務しています。

病院事業の継続性確保に向けた、計画的な事務職員の確保に努めます。

府中市民病院		平成 28 年度	平成 29 年度	増減
総務課	課長	0	1	1
	係長	1	1	0
	課員	3	4	1
人事課	課長	1	1	0
	係長	1	0	▲ 1
	課員	2	2	0
医事課	課長	1	1	0
	係長	0	0	0
	課員	1	1	0
	診療情報管理士	1	1	0
医師事務作業補助者		3	4	1
医療事務嘱託職員		※業務委託		



府中北市民病院		平成 28 年度	平成 29 年度	増減
総務課	係長	1	1	0
	課員	1	2	1
医事課	係長	1	1	0
	課員	※臨時・委託	※臨時・委託	—
	診療情報管理士	※臨時	※正職員兼務	—
医師事務作業補助者		0	0	0
医療事務嘱託職員		2	2	0

#### 4 働きやすい職場環境の整備

##### (1) 働き甲斐を感じることができる仕組みづくり

府中市民病院では、今年度は、年度計画達成のための職員提案を募集しました。提案内容は、院内の各委員会で見意見交換した後に、経営戦略会議で実施を決定する仕組みとしました。今年度の目標に掲げた、府中市民病院の各部署による「KAIZEN（改善）発表会」は、再開できませんでした。

府中北市民病院では、副院長（院長職務代理）が、直接、各部署の職員と意見交換を行いながら、病院としての取り組みを進めました。

職員の努力が適切に評価され、業績に反映されるなど、職員のやる気を最大限に引き出し、維持できる仕組みづくりを、引き続き検討します。

府中市民病院	平成 29 年度
年度計画達成のための職員提案	
医師（人）	1
看護部（人）	26
診療技術部（人）	10
事務職（人）	1
合計提案数（件）	79

##### (2) 日常的に業務改善に取り組む職場意識の醸成

府中市民病院では、すべての職員が病院の経営状況や課題を共有するために、幹部会での報告だけでなく、広報委員会による院内広報紙「元気でる新聞」を発行し、職員に向けて情報を発信しました。

府中北市民病院では、病院独自の広報紙「かわら版」を発行し、院外及び院内への積極的な情報発信に努めました。

組織力の向上に向けて、職員が業務運営の方向性を共有するための多様

な手段を、引き続き検討します。

	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
院内広報紙「元気であるでる新聞」			
発行回数(回)	2	4	2
広報紙「かわら版」			
発行回数(回)	4	5	1

### (3) 福利厚生の充実

法人全職員を対象に実施している「ストレスチェック」によるメンタルヘルスの自己確認や、月 1 回開催する労働安全衛生委員会で、事業者と職員代表がともに職員の労働衛生管理に努めました。

府中市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
ストレスチェック			
対象者 (人)	206	212	6
提出者 (人)	186	174	▲ 12
提出率	90.3%	82.1%	▲8.2%

府中北市民病院	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
ストレスチェック			
対象者 (人)	96	95	▲ 1
提出者 (人)	93	85	▲ 8
提出率	96.9%	89.5%	▲7.4%

## 第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

### 1 経営基盤の強化による自律した病院運営

法人の経営成績は、収支計画では約 3,500 万円の赤字を見込んでいましたが、決算では約 3,000 万円の黒字化を達成しました。経常収支比率は、99.1%の目標に対して実績は 100.8%で、市からの繰入金（当初予算：4 億円）から追加繰入金を受けることなく目標を達成できました。

(単位：千円)

繰入金を除く赤字額	平成 28 年度	平成 29 年度	増減
府中市民病院	▲238,718	▲146,886	▲91,832
府中北市民病院	▲251,670	▲222,752	▲28,918

2 病院合計	▲490, 388	▲369, 638	▲120, 750
--------	-----------	-----------	-----------

指標

項目	府中市病院機構		
	目標値	実績値	達成状況
経常収支比率（経常収益／経常費用）（％）	99.1	100.8	1.8 ○
医業収益比率（医業収益／医業費用）（％）	88.4	89.8	1.4 ○
給与費比率（給与費／医業収益）（％）	70.2	69.0	▲1.2 ○
医業収益（百万円）	3, 237	3, 274	37 ○
入院収益（百万円）	1, 850	1, 945	95 ○
外来収益（百万円）	1, 196	1, 149	▲47 ×
経常収益に対する市の繰入金比率（％）	10.9	10.8	▲0.1 ○

※経常収支比率は、市からの繰入金を算入後の数値です。

(1) 予算執行の弾力化

地方独立行政法人の経営自由度を最大限に生かし、効率的かつ効果的な病院運営を実現するため、弾力的な予算執行に努めましたが、今年度は特徴的な予算執行はありませんでした。

(2) 収入の確保と支出削減

毎月、収益目標に対する実績や経営成績を理事会へ報告し、目標管理を行いました。

項目	府中市民病院		
	目標値	実績値	達成状況
職員給与費対医業収益比率（％）	66.5	66.2	▲0.3 ○
材料費対医業収益比率（％）	16.6	14.1	▲2.5 ○
薬品費対医業収益比率（％）	9.5	8.2	▲1.3 ○
経費対医業収益比率（％）	13.9	18.7	4.8 ×
委託料対医業収益比率（％）	7.2	9.2	2.0 ×
減価償却費対医業収益比率（％）	11.0	7.5	▲3.5 ○
項目	府中北市民病院		
	目標値	実績値	達成状況
職員給与費対医業収益比率（％）	80.2	76.8	▲3.4 ○
材料費対医業収益比率（％）	14.5	14.0	▲0.5 ○

薬品費対医業収益比率 (%)	6.5	5.2	▲1.3	○
経費対医業収益比率 (%)	19.8	21.7	1.9	×
委託料対医業収益比率 (%)	8.6	9.8	1.2	×
減価償却費対医業収益比率 (%)	11.7	11.0	▲0.7	○

## 2 市からの財政支援

不採算医療など政策的に必要な部門の経費については、市の財政支援を有効に活用するものの、その他の部門での採算性を向上することで、地方独立行政法人の経営原則である独立採算制の確立を目指しました。

今年度の市からの繰入金は、当初予算4億円でした。市からの財政支援は、次のとおりです。

- ・病院の建設改良費に要する経費
- ・へき地医療の確保に要する経費
- ・不採算地区病院運営に要する経費
- ・リハビリテーション医療に要する経費
- ・救急医療の確保に要する経費
- ・高度医療に要する経費
- ・保健衛生行政事務に要する経費
- ・医師及び看護師等の研究研修に要する経費
- ・共済追加費用の負担に要する経費
- ・医師確保対策に要する経費

## 第5 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

### 1 市の健康福祉関連施策への積極的協力

両病院とも、公的な病院の使命として、市の健康福祉関連施策に対して積極的に協力しました。

### 2 医療機器などの整備

本年度の投資的経費は6,490万円で、両病院の医療機器整備と府中北市民病院の4階改築（サ高住）設計業務委託料に要した経費です。年度計画の借入予定額3,800万円に対し、借入実績額は6,060万円でした。不足財源については、12月市議会で借入額の補正をいただきました。

内訳	投資額
府中市民病院	5,610万円

主な購入機器	全自動散薬分包機・心肺運動負荷モニタリングシステム・セントラルモニタ・心電図送信機など
府中北市民病院	880 万円
主な購入機器	健診システム
主な施設設備	4階改築（サ高住）設計業務委託料

## 第6 予算、収支計画及び資金計画（平成29年度）

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

### 1 予算

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額
収入			
営業収益	3,635	3,672	37
医業収益	3,238	3,273	35
運営費負担金・交付金	387	387	0
補助金等	10	12	2
営業外収益	26	29	3
運営費交付金	13	13	0
その他医業外収益	13	16	3
資本収入	38	61	23
長期借入金	38	61	23
その他資本収入	—	—	—
その他の収入	—	—	—
計	3,699	3,762	63
支出			
営業費用	3,303	3,354	51
医業費用	3,297	3,349	52
給与費	2,273	2,260	▲13
材料費	519	460	▲59
経費	505	629	124
一般管理費	6	5	▲1
営業外費用	29	29	0
資本支出	257	284	27
建設改良費	38	65	27
長期借入金返還金	219	219	0

その他支出	—	—	—
計	3,589	3,667	78

## 2 収支計画 (単位：百万円)

区分	計画額	決算額	差額
収益の部	3,661	3,704	43
営業収益	3,635	3,675	40
医業収益	3,238	3,276	38
運営費負担金・交付金収益	387	387	0
資産見返物品受贈額戻入等	10	12	2
営業外収益	26	29	3
運営費交付金収益	13	13	0
その他医業外収益	13	16	3
支出の部	3,695	3,674	▲21
営業費用	3,666	3,645	▲21
医業費用	3,660	3,640	▲20
給与費	2,273	2,260	▲13
材料費	519	460	▲59
経費	505	645	140
減価償却費	363	275	▲88
資産減耗費	—	—	—
一般管理費	6	5	▲1
営業外費用	29	29	0
臨時損失	—	—	—
純利益 (▲純損失)	▲34	30	64
目的積立金取崩額	—	—	—
総利益 (▲総損失)	▲34	30	64

## 3 資金計画 (単位：百万円)

区分	計画額	決算額	差額
資金収入	3,961	4,121	160
業務活動による収入	3,651	3,689	38
診療業務による収入	3,238	3,273	35
運営費負担金、交付金による収入	400	400	0
その他業務活動による収入	13	16	3

投資活動による収入	—	—	—
その他投資活動による収入	—	—	—
財務活動による収入	38	61	23
長期借入による収入	38	61	23
その他財務活動による収入	—	—	—
前年度からの繰越金	272	371	99
資金支出	3,961	4,121	160
業務活動による支出	3,332	3,383	51
給与費支出	2,273	2,260	▲13
材料費支出	519	460	▲59
その他業務活動による支出	540	663	123
投資活動による支出	38	65	27
有形固定資産の取得による支出	38	65	27
その他投資活動による支出	—	—	—
財務活動による支出	219	219	0
長期借入金の返済による支出	124	123	▲1
移行前地方債償還債務の償還による支出	95	96	1
次期中期目標の期間への繰越金	372	454	82

## 第7 短期借入金の限度額

該当なし

## 第9 剰余金の使途

平成29年度決算によって生じた剰余金については、前期繰越欠損金に充当しました。